



市からのお知らせを市民の皆さんにお伝えしたり、事業に協力してもらったりするうえで、パイプ役として支えてくれる多くの人たちがいます。今回号ではその中で、地域づくりの中心的な役割を担う区長会、地域住民の福祉に貢献する民生委員・児童委員協議会、生活環境や健康を支える環境保健協議会の会長に出演いただき、それぞれの立場からのお話を伺います。



平成 26 年から高崎市環境保健協議会会長として本市の環境保健活動を推進。市の文化行政などにも尽力



平成 25 年から高崎市民生委員・児童委員協議会会長として本市の福祉行政に尽力。長年地域の活動に携わる



平成 22 年から高崎市市長会会長に。長年まちづくりに貢献。山車祭り保存会会長として伝統文化の保存・継承にも努めている



机上の判断ではなく、常に地域の声を受け止めながら、市民目線のまちづくりを進めていきたいと考えている

市長対談



# 市民と行政をツナグ思い

## 市民と行政をツナグ思い

**原点は「郷土を思う気持ち」**

**市長** 今年はポーランドのバレーボールチームが事前合宿を行ったり、国際大会が開かれたりと、多くの外国人が本市を訪れました。その人たちが高崎の印象についてみんな同じことを言います。一つには大変温かいおもてなしを受けたこと、もう一つはどこに行ってもまちがきれいだという事です。これもまちづくりのために頑張っていたに違いないとおかげだと思えます。まず竹中さん、今年には区長会創立60周年の節目を迎えられました。粉骨砕身、区長さんは大きな役割を果たしていただいていますね。

**竹中** 長い間生まれ育った地域のためという、郷土を思う気持ちがあるからですよ。

**市長** 自分の住んでるまちを、自分のふるさとを大事にしようという「郷土愛」が出発点なんですね。

**竹中** そうです。

**市長** 行政と地域の皆さんをつないでくださる区長さんがないと、まちづくりはうまくいきませんよ。

**竹中** でも市長、行政が市民に信頼されて「市がやることなら安心して協力しよう」という気持ちがないとダメなんですよ。新しい体育館をはじめ高崎には発展性がある。この5年間で高崎のまちは、ずいぶん今までにない特色が出てきていると思います。

**市長** ありがたいことです。行政の志と地域の皆さんの郷土愛とがうまく融

合して、はじめてまちづくりの効果を生み出せるんだと思います。

**訪問で築き上げる信頼**

**市長** 鈴木さんは、お年寄りの福祉など、区長さんとは違う、また難しい分野を担っていただいています。民生委員児童委員の皆さんには市で行う福祉のいろんなプロジェクトにご協力いただいています。

**鈴木** 私たちは、担当している地域の状況を把握するため、高齢者のお宅などを直接訪問して情報を得ています。市がいろいろと福祉の先端を行く事業を実行してくれるのがあるがたい事です。でも、あんしんセンターや認知症高齢者のはいかりを防ぐGPS機器の貸与などの事業をPRするのも、お年寄りにきちんと分かるようにお伝えするのはなかなか難しいですね。

**市長** 例えば相談事も信頼関係を築き上げることが必要でしょうからね。

**鈴木** そうなんです。11月には任期で改選になるんですが、およそ700人の委員のうち半数近くが新しくなります。慣れるまでが大変なんです。

**心を動かす環境への取り組み**

**市長** さて井上さん、環境保健委員の皆さんは、ごみの分別作業など、献身的に取り組んでいただいています。その姿には本当に頭が下がる思いです。

**井上** 今、一番問題となっているのは、地域外の人が車で乗り付けて、ごみをボンと置いて行ってしまふこと

**高齢化に対応する福祉施策**

**市長** 福祉の分野では、高齢化が進んで課題も出てきていますね。

**鈴木** お年寄りが増えている現実にかに対応するんです。今は健康年齢、つまり元気である年齢を上げようという施策を、高齢者の交流の場となるサロンを中心に広めようという取り組みがあります。高崎市には350ほどのサロンがありますが、お年寄りに好まれるようなレクリエーションや運動を取り入れるなど工夫が必要です。長寿会とも連携しながら進めていきたいですね。

**市長** 長寿会といえは、市社協にお願

いしている買い物代行ボランティアにも協力してもらっています。お年寄りのお宅に向かう高齢者あんしんセンターについてはどうお考えですか。

**鈴木** 26か所に広がりましたが、地域によって難しいところがあります。ちよんどの一年半ほどになりましたが、多少見直ししながら進めていく方がいいと思います。

**市長** 相談数が多いので、人員は増やしていきます。地域の特色や状況をうかがいながら検討していきますよ。

**ごみ出しも大変になる時代**

**「郷土愛」で課題を乗り越える**

**市長** 環境に関わる課題などはいかがですか。

すね。

**市長** 私もそのことを聞きまして、希望する地域のごみステーションに見守りカメラを設置することにしたんです。今年には設置の希望が多いんですよ。

**井上** 9割以上の人はルールを守ってくれています。ほんの一部の人たちなんです。説明や指導をして協力をお願いしています。

**市長** 環境保健委員の皆さんが朝黙々と掃除なさっているのを見ると、ごみの捨て方を考えさせられますよ。市内の小・中学生は授業で高浜クリーンセンターを見学します。そこではものすごい分量のごみを、最後は人の手で分別している。子どもたちもきつと同じように感じてくれるはずですよ。

**地域の中にもっと防災意識を**

**市長** 竹中さん、これからの高崎を考えたときに、地域の中ではどのような課題があるとお考えですか。

**竹中** いま私が一番心配なのが、防災なんです。地域のことは地域で守る。だから地域の人たちに防災意識を高めてもらいたいと思っています。

**市長** 3年前の大雪の経験などを生かして、電話一本で、市の職員がすぐ駆け付けるといふ仕組みを作りました。本庁と支所のバス6台、公用車43台を派遣し、避難が必要な人たちを安全な場所まで送迎するものです。消防団とか、隣近所の人々が助けてくれることが一番大事だけど、できない場合もありますから。

**井上** そうですね。ごみの収集については、だんだん個別回収になっていくんじゃないかなと思います。

**市長** ごみが収集場所まで出せないお年寄りも増えてきますね。

**鈴木** 5年後、10年後に、高齢者が一番困ることを教えて下さいというアンケートを取ると、ごみ出しの問題が出てきます。通学途中の小学生にお願いしてごみを出してもらおうという話も耳にしますが、地域の中で高齢者と子どもがコミュニケーションを取れる良い方法だと思っています。

**市長** それはいいアイデアだ。少し研究していただいて、提案してください。

**井上** 通学路がありますからね。ごみを出せない人は家の前に置いておいて、近くのゴミステーションまで子どもたちに持って行ってもらえばいいんですよ。

**竹中** 子どもたちも人の役に立っているという気持ちになりますよ。それが本当の教育というもののじゃないかな。

**市長** そうですね。今後、さまざまな問題があっても、私は、自分たちの住むまちが好きで大切にしたいという気持ちさえ崩れなければ、先ほども話に出た「郷土愛」があれば乗り越えていけると思います。これからもそれぞれの立場からまちづくりにご協力ください。本日はありがとうございました。

**三人** ありがとうございます。